

来春大卒の就活 八戸で本格化

学生情報収集に余念なし 企業人材確保へ売り込み



就職活動が始まり各企業の説明を熱心に聞く学生。2日、八戸プラザアーバンホール

3月に入り、来春卒業予定の大学3年生らに
対する会社説明会の解禁で本格化した学生の就
職活動。2日には八戸市内で、八戸学院大・八
戸学院短大、八戸高専がそれぞれ説明会を開催
した。経団連のルール変更で面接などの選考活
動の解禁が2カ月前倒しされたため、学生たち
は情報収集に余念がなく、人材を確保したい企
業側も売り込み懸命。「短期集中型」の「就
活」が熱を帯び始めた。

(玉川那津美、水野大輔)

八戸プラザアーバンホー
ルで開かれた八学大などの
説明会では、学生約110
人が福祉や食品関連、病院
など51社・施設から説明を
聞いた。八高専では対象の
学生約100人が校内2カ
所の体育館に並んだメーカ
ーや建設・エネルギー関係
など112社・団体のプ
ースを次々と巡った。
選考開始が昨年の8月1
日から、6月1日に早まっ
た今シーズン。八学大3年
の女子学生(1)は「企業を
調べる時間が短いのは不
安。興味がある会社に足を
運んで見極めたい」とこの
日も熱心に企業研究。八高

専4年の男子学生(10)は
「大変だろうが、昨年のよ
うにドタバタした感じには
ならないだろう」と前向き
に捉える。

学生優位の売り手市場と
され、企業側も必死だ。市
内の建設資材販売会社の担
当者は「学生の企業研究の
時間が短いと、会社内容を
よく知らないまま入社試験
を受け、途中辞退につなが
ってしまつ」と日程変更の
影響を懸念。自社主催の説
明会の回数や場所を増やす
ことなどを検討中という。

既に選考機会を複数に増
やすことを決めた青森県内
の食品メーカーも、東京の

プラントメーカーの担当者
は「学生に焦りが見られ
る。負担を掛けない対応を
心掛ける」と学生への「気
遣い」を強調する。

県内企業の採用活動は全
国と比べて遅れがちで、若
者の地元定着につながら
ないとの指摘もある。

このため、八学大、八高
専、八戸工業大の3校主催
で今月24日、八戸プラザ
アーバンホールで県南地方企
業限定の説明会を初開催す
る。担当者は「全国各地か
ら参加が可能だ。地元就職
率の向上につなげたい」と
している。